

長男のステロイド使用後の症状と次男・三男の早期治療を記録した兄弟3人のアトピー経過
(2歳2か月・乳児2人男児3人)

症例 ID：001-02-KTo | 記録日：2001年3月17日

1. 診断・治療前経過

長男は生後2か月頃に顔を中心とする症状があり、ステロイド外用薬とザジテンシロップを使用しました。外用を中止すると悪化し、医療機関を複数回られました。

長男は生後6か月頃に治療を開始しました。次男は生後3か月、三男は生後2か月で治療を開始しました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	長男はステロイド外用薬とザジテンシロップを使用しました。次男はアンダーームを処方されましたが使用しませんでした。
製品名	長男のステロイド製品名は不明です。ザジテンシロップの使用歴があります。
強度	不明です。
使用期間	長男は生後6か月頃まで使用しました。
中止時期	長男は治療開始前に中止しました。
来院前／後	長男は来院前に使用歴があります。次男は使用せず、三男の使用歴は不明です。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
長男・生後2か月頃	検査・治療前	顔の湿疹が強く、食物特異的IgEを含む高値がみられ、外用薬と内服薬を使用しました。
長男・生後6か月頃	治療開始	漢方入浴と外用処置を開始しました。
長男・開始1～2週間	変化	浸出性の皮膚が茶色く乾いていきました。
長男・開始約1か月	皮膚の変化	赤くごわつた皮膚の間に白い皮膚が見えるようになりました。
長男・開始2～3か月	経過中	良い日と悪い日を繰り返しながら、良い状態の日が増えました。
長男・開始5～6か月	経過後	外用する部位がほとんどなくなり、見た目ではアトピーと分かりにくくなりました。
次男・生後3か月	早期治療	ステロイドを使用せず治療し、1～2週間で症状がみられなくなりました。
三男・生後2か月	治療開始	記録時点で治療を開始したばかりでした。

4. ピーク時期

長男のピークは、治療前に顔の湿疹と浸出症状が強く、外用薬を中止すると悪化した時期です。治療開始後は大きな悪化はみられませんでした。

5. 困りごと

- ・長男の皮膚症状と検査値を受け、母親に厳しい食事制限が必要と説明されました。
- ・家族は治療法を探して複数の医療機関を受診し、心理的な負担が続きました。
- ・兄弟3人の入浴と外用処置を継続する必要がありました。

6. 検査値・写真・画像 ※治療前後の比較ではなく、経過中にみられた症状や検査値の記録として掲載しています。

検査時期	項目	値
長男・生後2か月頃	総IgE	836
同時期	卵白	49.59

検査時期	項目	値
同時期	牛乳	5.18
同時期	大豆	11.29
同時期	小麦	49

7. 経過のまとめ

長男は治療開始 5～6 か月後には外用部位がほとんどなくなり、見た目ではアトピーと分かりにくくなりました。

次男は生後 3 か月から治療し、1～2 週間で症状がみられなくなりました。三男は生後 2 か月で治療を開始した段階でした。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。